

地域を支えるプロになる

Become a professional who supports the community



京都市立病院
看護職員募集案内

人々に寄り添い、地域を支える。一人の看護師として、このまちにできることを

看護部理念

- 患者の権利を尊重し、安心できる心のこもった看護を提供します。
- 専門職として科学的で創造的な看護を目指します。
- 医師および他部門との信頼関係をもって協働します。

看護方針

1. 患者さんの権利・尊厳を重視する看護を実践する。
2. 科学的根拠に基づいた有効で適切な看護を実践する。
3. 安全性を重視し予測を持った看護を実践する。
4. 公平で効果的、効率的な看護を実践する。
5. 多職種と連携し専門性豊かな看護を実践する。
6. 看護職一人ひとりの成長を支援する教育を行う。

教育方針

看護を必要とする全ての場面で
適切な判断根拠に基づき
看護実践能力を発揮できる看護職員を育成します。



[看護部長メッセージ]

患者さんの声を「聴き」、暮らしを知る

副院長兼看護部長 半場 江利子

いま、医療は「病院完結型」から「地域完結型」へと移行し、患者さんにとって病院は一時的な場にすぎません。看護師は退院後の患者さんの生活を見据え、地域の人々と連携しながら、継続的なケアを行う必要があります。専門的な知識・技術に加えて、患者さんの声を「聴き」、人々の暮らしを知ろうとする姿勢。「患者さん」ではなく「市民」として、その人を支える「プロ」へと成長しましょう。

職員の向上心に答える教育体制



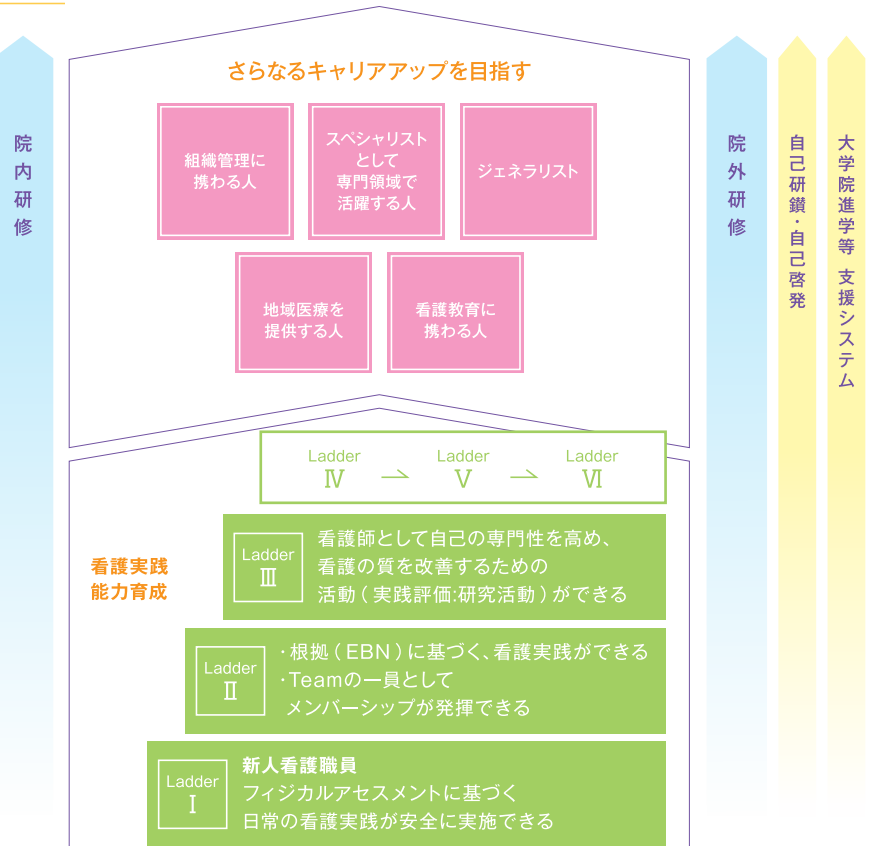
採血&ルート確保研修



フォローアップ研修
(多職種合同)



急変時対応研修



キャリアラダーの詳細はこちら



京都市立病院機構理念

- 京都市立病院機構は
- 市民のいのちと健康を守ります。
 - 患者中心の最適な医療を提供します。
 - 地域と一体となって健康長寿のまちづくりに貢献します。

京都市立病院の特色 京都市立病院機構理念を念頭に、質の高い医療サービスを提供し、市民のいのちと健康を守る自治体病院としての責任を全うしてまいります。

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院(地域災害医療センター)
- 第二種感染症指定医療機関
- エイズ治療拠点病院
- 入院基本料I(看護配置7対1以上)
- 救急告示病院
- 臓器提供施設
- 骨髄採取・骨髄移植認定施設
- 日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver.2.0)
- 地域周産期母子医療センター(2次周産期医療)

関連施設 京都市立京北病院 京都市右京区京北下中町鳥谷3番地
TEL:075-854-0221 FAX:075-854-0825 <https://www.kch-org.jp/keihoku/>

看護提供体制 パートナーシップ・ナースング・システム(PNS)

概要

- 名称: 京都市立病院
開設年月日: 昭和40年12月1日
病床数: 548床(第二種感染症用を含む)
建物面積: 50,582㎡
診療科目: 内科、呼吸器内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液内科、内分泌内科、糖尿病代謝内科、アレルギー科、感染症内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科、救急科、緩和ケア内科



〒604-8845 京都府京都市中京区壬生東高田町1-2
TEL:075-311-5311(代) FAX:075-321-6025(代)

<https://www.kch-org.jp/kango/>



看護部のイベント、
採用情報を配信しています!



[新人看護師の一年]

4月

- 新規採用オリエンテーション (全職種合同)
- 看護記録研修
- 電子カルテシステム研修
- フィジカルアセスメント
- 採血・点滴準備・翼状針など 静脈注射に関する技術
- 循環とフィジカルアセスメント
- 呼吸管理技術とフィジカルアセスメント
- 吸引・酸素吸入技術
- 輸液管理・ME機器操作研修 (シリンジポンプ・輸液ポンプ)
- 輸液とフィジカルアセスメント (抗生剤・薬剤代謝)



PNS体制での看護実践風景

5月

- 日常生活援助とフィジカルアセスメント (移動技術・清潔ケア技術)
- 日常生活援助とフィジカルアセスメント (排泄ケア技術・食事ケア技術・ケア計画)
- フォローアップ研修 (全職種合同)



6月

- 夜勤前多重課題研修

7月

- BLS 研修



8月

- 半期振り返り

9月



10月

- フォローアップ研修 (全職種合同)

[新人看護師の1日]

8:30 朝礼、情報共有

病棟全体で検査や手術を受ける患者さんの情報を共有。その後、ベアを組む先輩と患者さんの状態を確認します。

9:00 受け持ち患者さんのところへ

先輩と病棟をまわり、バイタルサインのチェック。新たに入院された患者さんには疑問点などをヒアリングします。

10:00 ケア

清潔ケアや検査・処置の介助などを行い、合間に患者さんとコミュニケーション。会話から信頼関係を築きます。

12:00 休憩

休憩を交替でとるために、先輩と再度情報共有。お弁当を食べて、ほっと一息。

14:00 検査、カンファレンス

ケアや検査の介助のあとは、カンファレンス。医療専門職が集まり、治療方針について意見交換を行います。

16:30 申し送り

その日の業務を終え、夜勤の看護師へ申し送り。先輩と一緒に患者さんの状態をわかりやすく伝えます。

17:15 終業

おつかれさまでした!

ライフスタイルに合わせたシフト体制

- 3交代制 (深夜・日勤・準夜)

深夜	0:30 ~ 9:15
日勤	8:30 ~ 17:15
準夜	16:30 ~ 1:15

日	月	火	水	木	金	土
日勤	公休	日勤	日勤	深夜	準夜	公休

- 変則2交代制

日勤	8:30 ~ 17:15
長日勤	8:30 ~ 21:30
長夜勤	20:30 ~ 9:15

日	月	火	水	木	金	土
日勤	長日勤	長夜勤	明け	公休	公休	日勤

[新人看護師メッセージ]

先輩の指導から多様な看護観を学びながら 治療を頑張る子どもたちをサポート

小児科病棟 (2022年入職)

子どもが好きで現在は小児科病棟に勤務。治療を頑張る子どもたちをサポートしています。勤務中は数名の先輩が交代で指導してくださるので安心です。またそれぞれの先輩の看護観や仕事ぶりから、多様な看護のかたちを学んでいます。これから伸ばしていきたいのは「観察力」。子どもたちの変化に素早く気づき、対処できる看護師を目指します。





11月



- 法人組織の役割について理解する
(施設認定、入院診療計画書、DPCなど)

12月

- 部署の先輩と事例検討を通して看護についてディスカッション
- 先輩の研修発表会に参加(ラダーⅡ)
(エビデンスに基づいた看護実践を聞く)

1月

2月

3月



- 一年の振り返り

スタッフ一丸となって新人を支えています！

[チューターメッセージ]

新人たちの看護に対する熱い思いに応えて指導
彼らの評価を耳にするのが喜び



小児科病棟 (2020年 入職)

3名の1年目看護師を指導しています。新人たちは皆、看護に対する思いが強いのが特徴。自分の1年目を思い出しながら、彼・彼女らが相談をしやすいよう気を付けています。指導した後輩たちが知らないところで評価され、それを人から聞かされたときはやはり嬉しいですね。自分の理想の看護師像を持って、それを目指して頑張ってください。

[教育担当者メッセージ]

細かく目標を設定することで
新人たちに日々、達成感を

新人教育では、「日帰り入院の対応ができる」「夜間の緊急入院をサポートできる」など細かく目標を設定。一つ目標を達成することで、成長を実感できるようにしています。看護師長とも相談しながら、一人ひとりに無理のない教育計画を立案しています。

[看護師長メッセージ]

「聴く」こと「言語化する」こと
多様な選択肢を持つ看護師に

まず他者の思いを「聴く」こと、そして自分の考えを整理し、言語化することが大切。新人には、看護にできるだけ多様な選択肢を示せるような看護師に成長してほしいですね。またチューターにも、新人指導を通して成長してほしいと願っています。

手厚いフォローがわかる「気持ちグラフ」はこちら



京都を支えるプロとして… 私の実践

[2年目 看護師メッセージ]

患者さんの生活や人生をイメージし、
最適な地域医療のあり方を見つける



耳鼻科・眼科・皮膚科・神経内科混合病棟
(2021年 入職)

「地域医療」に力を入れていることが当院の特色。患者さんの退院後の生活を踏まえてセルフケア支援を行いながら、ご家族や社会福祉士、訪問看護ステーションなどと調整しています。患者さんがそれまでにどんな生活を送ってきたのか？どんな人なのか？…しっかりとイメージすることで個性を尊重したいと思います。

[3年目 看護師メッセージ]

どんなときもその人らしい暮らしを
温かい思いを、言葉と行動で伝える



消化器内科・泌尿器科・腎臓内科混合病棟
(2020年 入職)

退院前カンファレンスで看護師は、入院中に患者さんを見てきた経験から、その方の価値観や哲学、人間性を重視した提案を行います。患者さんがどんなときもその人らしく暮らしていけるように、知識や技術はもちろん、患者さんを支える温かい思いと、それを言葉や行動にすることを忘れずに看護をしたいと思います。

プロを目指す 学生の支援

(実習指導者の関わり)

臨地実習の指導者が、
その後、入職した新人も
支えます。

自分がしたい看護ではなく、患者が望むケアとは何か、を考えてもらえる実習指導を心がけています。学生の時からその人らしい選択(意思決定)を共に考える姿勢をもってほしいと思っています。

その他先輩、スペシャリストナースのメッセージはこちら

